

主要Q&A

<全社>

Q: 2013年3月期の通期業績の概要について教えてください。

A: 2013年3月期も、ヨーロッパにおける不安定な経済環境や地政学的リスクの増大、世界各国におけるたばこ規制の強化と増税・総需要減少等、弊社グローバルビジネスを取り巻く環境は、引き続き、不透明且つ厳しいものでありましたが、こうした不確実性の高い事業環境下においても、柔軟かつスピーディに対応してきた結果、弊社業績は、すべての主要利益指標において、当初目標を大きく上回る、力強い成長を実現しました。

売上収益は対前年同期+4.2%、報告ベース調整後EBITDAは+7.8%、親会社の所有者に帰属する当期利益は+7.1%となりました。

最も重要視しているグループ全体の為替一定ベース調整後EBITDAは、年度当初に掲げた目標を大きく上回り、対前年+15.1%成長の6,642億円に到達することができました。

この成長は、中核事業であるたばこ事業により、大きく牽引されています。特に、海外たばこ事業は、販売数量の増加と単価上昇を両立させ、ほぼすべての主要マーケットで、数量シェアを伸長させることができました。その結果、お約束通り、二桁利益成長率を達成いたしました。加えて、国内たばこ事業では、震災影響から順調に回復しており、引き続き、JTグループ内マーケットの中で最大の収益力を維持しております。特に、直近の2月、3月は、二カ月連続で数量シェアは60%に到達しました。また、医薬・飲料・加工食品事業のそれぞれにつきましても、将来のグループへの利益貢献に向け、収益基盤の着実な強化を実行してまいりました。

力強い利益成長に支えられ、2月に公表していた予想から配当金を更に3円増配し、対前年18円増配の68円を提案させて頂いており、その結果、2013年3月期の配当性向は、前年度を大きく上回る、37.6%となる見込みです。

Q: 2014年3月期の通期業績見込は。

A: 2014年3月期の通期業績見込は、たばこ事業のトップライン成長により、全ての利益指標で過去最高益を更新する見込みです。

たばこ事業においては、海外たばこ事業での単価上昇効果を中心としたトップライン成長に加え、大幅な円安影響による増益、国内たばこ事業での販売数量増加による増益、をそれぞれ見込んでいます。

売上収益は対前年+11.7%、調整後EBITDAは+17.3%、営業利益は+15.7%、親会社の所有者に帰属する当期利益は+20.8%を見込んでいます。なお、為替一定ベース調整後EBITDAは+6.1%となる見込みです。

また、連結配当性向については、昨年度よりお約束している40%を改めてお約束申し上げます。このような力強い利益成長と着実な連結配当性向の向上により、2014年3月期の一株当たりの配当金は、対前年24円増、率にして35%増の92円を見込んでおります。

Q: 経営計画2013の概要について教えてください。

A: 我々は引き続き、中長期に亘る持続的成長を目指します。具体的な中長期の目標については、昨年度お示した水準と変更ございません。引き続き、為替一定・調整後EBITDAは年平均mid to high single-digitの成長を目指してまいります。

連結配当性向につきましては、昨年度お約束したとおり、2013年度に40%を達成するという内容に変更はございませんが、ローリングプランを精査した結果、50%達成の目標時期については、2016年度から一年前倒しをし、2015年度での実現を目指してまいります。

なお、為替一定・調整後EPSIにつきましては、引き続き中長期的に年平均high single-digitの成長を目指してまいります。

これらの中長期の主要経営目標の実現に向け、持続的な利益成長を実現するための事業投資を緩めるつもりはありません。

<国内たばこ事業>

Q: 2013年3月期決算の概要は。

A: 販売数量は、震災の影響を受けて販売数量が大きく減少した2012年3月期と比較すると、着実なシェア回復により、対前年78億本増の1,162億本となりました。
自社たばこ製品売上収益は、販売数量の増加により増収となり対前年+6.9%の6,540億円となりました。
調整後EBITDAは、シェア回復のために積極的に行ったブランドエクイティ投資のための費用増があったものの、販売数量の増加および2012年3月期にあった震災損失計上がないことにより増益となり、対前年+7.3%の2,813億円となりました。

Q: シェアの状況は。

A: シェアは、ブランド・エクイティ強化のための継続的な投資の成果や、お客様ニーズに応じた新製品の投入、様々なキャンペーンや販売促進活動により着実に回復しています。
2月には、MILD SEVENからMEVIUSへの名称変更を行い、2月、3月の単月シェアは60%に到達しました。
年度累計シェアでは、2013年3月期は59.6%となり、2012年3月期累計の54.9%と比べると、+4.7%ポイントのシェア回復を達成しました。

Q: 2014年3月期の見込みは。

A: 国内市場の総需要は、高齢化の進展、喫煙と健康にかかる意識の高まりなど、構造的要因等により、引き続き減少傾向が続くものと考えており、厳しい事業環境にあります。そうした環境の中、2014年3月期は、対前年で▲2-▲3%程度の総需要減少を想定する一方で、震災の影響を受けて失ったシェアを今年度も着実に回復させたいと考えております。また、2014年4月に予定されている消費税増税に伴う仮需を0.3か月から0.5か月程度の一時的な数量増効果として織り込みました。これらを前提とし、販売数量は対前年28億本増加の1,190億本を見込んでおります。
販売数量の増加により調整後EBITDAについては、対前年増益を見込んでおります。

<海外たばこ事業>

Q: 2013年通年の見込みは。

A: 事業環境としては、2013年も引き続き、経済及び規制環境が厳しい状況になるものと考えており、特に西欧では景気停滞、中東では政情不安定が続くと想定しています。こうした厳しい事業環境の中でも、イノベーション施策を含めたブランド・エクイティの更なる向上等によるシェア伸長、新興市場でのプレゼンス拡大により、GFB販売数量については、4か年連続のプラス成長、+1.6%成長を目指してまいります。総販売数量は、西南欧での総需要減少影響等があるものの、GFB成長に加えGryson社のM&A効果が一部を相殺し、対前年-1.0%成長を見込んでいます。
為替一定ベース調整後EBITDAについては、GFB成長と単価上昇効果を成長ドライバーに、+11.6%成長を見込んでいます。

Q: 2013年1-3月の販売動向は。

A: 海外たばこ事業の1-3月期販売実績は、前年同期比で、GFB販売数量-4.5%、総販売数量-6.4%となりました。これは、イタリアを中心とした欧州での景気後退に伴う総需要減少に加え、複数市場での流通在庫調整の影響によるものです。流通在庫調整は、12年1-3月の中東、イタリア、スペインでの流通在庫積み増しや充実により昨年の水準が相対的に高かったことに加え、中東の一部市場での12年10-12月期の流通在庫積み増しに伴う反動減および出荷停止影響など、この1-3月期に発生する固有のものと考えております。
たばこ需要のトレンドやJTIのビジネス・ファンダメンタルそのものは、昨年から大きな変化はなく、GFBの成長に加えGryson社のM&A効果も寄与し、通年の総販売数量は、前年同期比で-1.0%となる見込みです。